

地域の力を集めて……

生徒会長

私が生徒会長に立候補したとき、二つのことを公約に掲げました。一つ目は生徒会の向上とともに、長野南高校を内側から変えていくこと、二つ目は長野南高校の活動を地域に発信し、

南高のことをより知ってもらうということです。しかし、実際には、理想的に運営できず、反省すべきことばかりで、活動も中途半端に終わってしまいました。私は、一年生の頃から生徒会の役員をやらせていただき、二年間南高がどうすれば地域の方々から良い学校としてみただけか考えてきました。生徒会長の仕事を終える現在となっても改善すべき点はまだ残っていると感じた時、私は、自分の世代だけで変えようとするのではなく、これまでの歴史の中で積み上げてきた上に私たちが立ち、私達がまた土台となり、後輩に繋いでいく、その中で学校というものは変わっていくのだと感じました。私達二十九代目の生徒会も、長野南高校の願いとして未来の生徒会を支えて生きたいと思えます。

今年で長野南高校は、地域の皆様のおかげで三十周年という節目の年を迎えることができました。過去には統廃合の問題もあり、地域の方々の応援もあり、今日までたくさん生徒が活動が続けてくることができました。この一年間で、私達の生徒会活動により、少しでも地域の方々に恩返しができたと思います。時期生徒会の皆さんにも地域交流を深めて言ってもらいたいと思います。これからは何十年と長野南高校が地域の人々と一緒に夢ある学校、笑顔溢れる地域づくりを目指していくことを願っています。一年間、生徒会長としてお世話になり、本当にありがとうございます。これからも長野南高校をよろしく願います。



長野コスモス夏祭りボランティア

30th 南 稜

第二回(全四回)

市民運動の高揚と公立普通高校新設の実現

犀南地区市民参加の公立普通高校新設運動が本格的に始まるのは、昭和五十年、二百人近い参加者を集めて開かれた、川中島町公民館での第八回犀南地区教育懇談会であった。この教育懇談会に参加した父母や、教師、一般市民から犀南地区の子弟の高校進学の実状や、悩みなどが報告され、高校新設の必要が真剣に討論された。この時の教育懇談会参加者を核に「犀南地区普通高校新設期成同盟会」が組織され、公立普通高校新設運動は、遼原の火のように犀南地区全域に広まった。そうして県議会、県教育委員会など関係当局に幾度となく請願、陳情(資料参照)をくり返す中で、現長野南高校の地に、昭和五十八年度、新設高校開校の確約を県教育委員会から得たのである。

長野南高校は、犀南地区市民長年の悲願

公立高校新設運動の概略で述べたように、この犀南地区の運動は、当時各地で起こった公立高校新設運動(中野、佐久、諏訪、伊那、松塩地区等)が、地方自治体の首長を先頭に、公費で行った公立高校新設運動とは、本質的に異なるものであった。犀南の高校新設運動は、更北区良会長の村松猪太郎氏を会長に、事務局は更北中学校におかれ、運動資金はカンパによる市民運動であった。そしてこの運動は、思想、信条、政党の枠を超えた「全入」、男女共学、小学区制、総合選抜の、いわゆる「高校三原則」実現を指向した犀南市民の教育大運動であったと言える。そして、新設運動に燃えた市民のエネルギーは、そのまま「地元の子弟は、自分たちが運動して実現させた長野南高校に」と言う開校フィーバーとなって引き継がれていったのである。